

特 集

妊娠に影響する感染症の 最新知識

企画者のことば

成瀬勝彦*

2020年に始まったCOVID-19のまん延は私たちに感染症の社会的影響をイヤと言うほど実感させましたが、産婦人科医にとって感染症は有史以来、常に直面し続けている問題です。新規感染症はもちろんのこと、既存の感染症についてもわれわれは知識のアップデートを怠ることはできません。特に産科の分野においては、出生前遺伝学的検査が開始される前から母児感染という悲しい問題をどのように検査し、防いでいくのかに長らく腐心してきた歴史があります。幸いにしてこれらの治療は後戻りすることはなく、新しい知見を積み重ねていくことで母児の予後をよくしていくことにつながるはずです。

本特集では妊娠に影響する各種の感染症について、産婦人科に限らない精鋭にご執筆いただきました。いずれの先生も日々の現場で実際に症例を診ておられるスペシャリストであり、産婦人科診療ガイドラインなどで示されている最大公約数的なものとはまた異なった視点での知見を含めご解説いただいております。一般医家の近年の悩みを解決に導ける策など、思いきった内容となっており、ふだん目にする一般的な教科書とは一線を画す、企画者のこだわりが現れた特集になっていると自負しております。

読者の皆様の日常臨床に大きな助けとなるものと確信しております。

*Katsuhiko Naruse 獨協医科大学産科婦人科学教室主任教授(産科担当)